

(a) 食塩負荷による血圧変化(%)

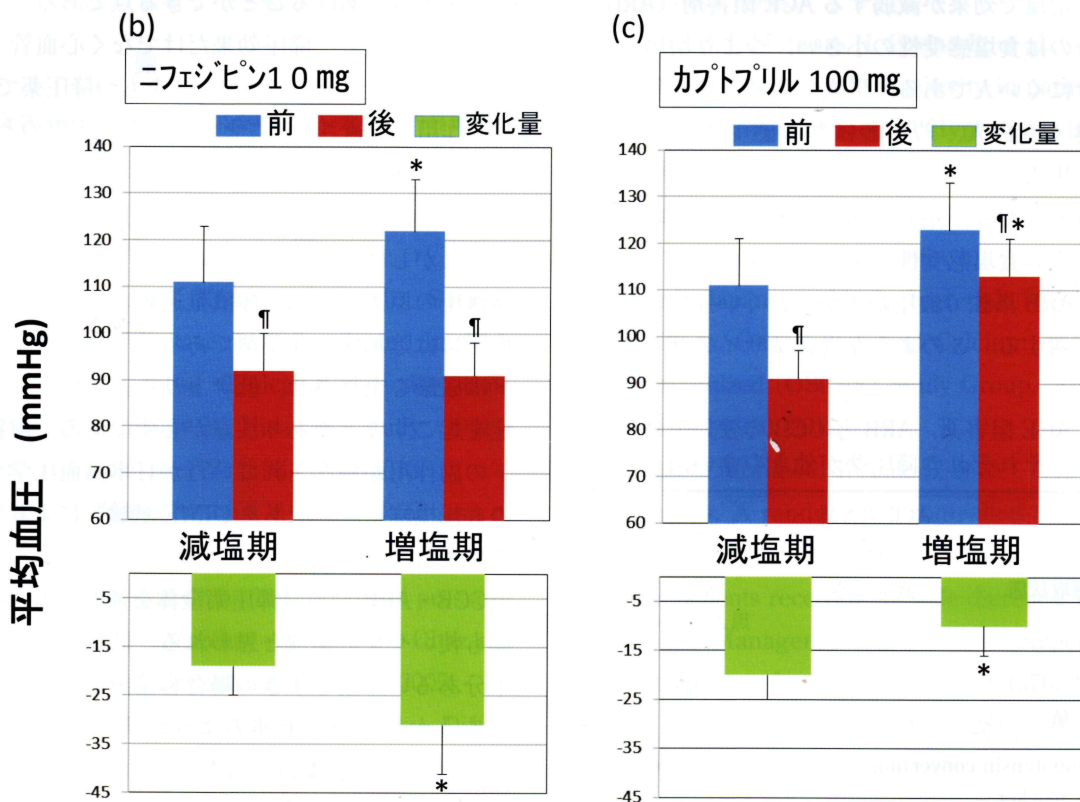
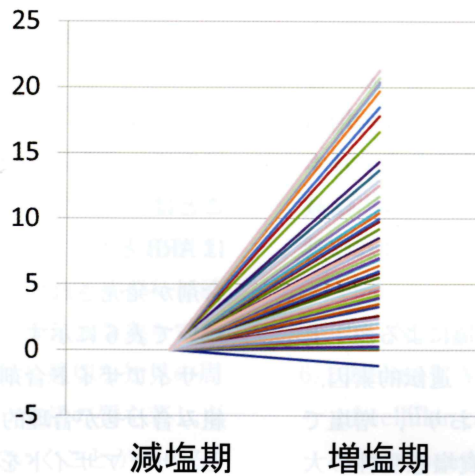


図 2

(a) 減塩期 (食塩 3 g/day) から増塩期 (食塩 20/day) にかけての平均血圧の変化 (%), (b) 減塩期と増塩期におけるニフェジピン 10mg に対する降圧反応, (c) 減塩期と増塩期におけるカプトプリル 100 mg に対する降圧反応

*p<0.01 vs. 減塩期, †p<0.01 vs. 前

食塩摂取量の増加によりニフェジピンの降圧効果は増強するがカプトプリルの降圧効果は減弱する。文献 4) より改変。

(注) 平均血圧：(収縮期血圧－拡張期血圧) × 1/3 + 拡張期血圧

VI. 食塩摂取量と ACE 阻害薬, CCB の降圧効果 (図 2)

1980 年代, 広島大学医学部第一内科の高血圧グループは入院中の高血圧患者に食事の食塩含量を

変化させた減塩食 (3 g) と食塩過剰摂取食 (20 g) を各 1 週間体験していただき, 各週最終日に CCB であるニフェジピン, ACE 阻害薬であるカプトプリルの降圧効果を調べた⁶⁾。その結果, 1) 血圧は増塩で上昇するがその程度は個人差が大きい (図 2a), 2)